

保 健 管 理 報 告

第 2 1 号

2022（令和 4）～2023（令和 5）年度

神戸親和大学

保健室・学生相談室

ごあいさつ

今回、保健管理報告第 21 号を発刊するに当たり関係各位に深く御礼を申し上げます。また、平素より保健室、学生相談室、学校医の先生方には学生の充実した学生生活および教職員の職務遂行がなされるようご尽力いただきましたこと、誠に感謝いたします。

まず、大学における学生および教職員の保健管理を行うためには、法令（学校保健安全法、労働安全衛生法、感染症法）に基づき、年 1 回それぞれ適切な時期までに健康診断を受診することが義務づけられています。前回（第 20 号）の保健管理報告書によると、本学の受診率は「約 98～99%」を占めており、全学において健康に対する意識が高いことが窺える一方、保健室利用状況や学生相談室利用状況（主訴：心身の健康状況、人間関係など）も年々増加傾向にあることも把握しておかなければいけません。それは 2020 年 4 月に世界中へ感染が広まった「新型コロナウイルス感染症」の影響が大きいと考えられます。特に、当時は厚生労働省より「新しい生活様式」の実践例を基に、一人ひとりの基本的感染対策（身体的距離の確保、マスクの着用、手洗い）、日常生活を営む上での基本的生活様式、日常生活の各場面別の生活様式、働き方の新しいスタイルなどが提言されていました。その中で、いかに個々に感染対策を講じながら、自宅において心身の健康の維持・増進に努めるのが課題であったことも記憶に新しいところです。

現在、世界中において新型コロナウイルス感染症に対する「ワクチン接種」が進んだこともあり、コロナ以前の日常的な生活習慣および経済活動を含めた社会的な習慣を概ね取り戻すまでに至っています。しかしながら、2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行してからも、新たな変異株の存在も度々報告されるようになり、今後も継続して個々に自覚を持った行動が求められるのも事実です。そのため、本学においても今まで以上に各人がマナーを守ったうえで、キャンパス内でも引き続き感染対策の重要性を問いつつ、学生および教職員が一丸となって学業や課外活動を充実できるような取り組みを、共に構築する必要があるといえます。

以上を踏まえると、これからも生涯に亘る心身の健康・体力づくりに努めるためには、日々の生活習慣の中に「身体活動・運動」を取り入れ、それぞれが多角的な視点から意識付けをすることが必要となります。そして、本学における保健管理を充実した取り組みにするためにも、あらゆる角度から学生および教職員が連携して健康管理をサポートしていくことが望まれます。上記の内容をもちまして、私のごあいさつに代えさせていただきます。

2024 年 秋
学生担当部長 宮辻 和貴

目次

ごあいさつ

I	保健室の年間業務	1
	1. 通年業務	
	2. 月別業務	
II	保健室利用状況	2
	1. 2022 年度	
	2. 2023 年度	
III	学生定期健康診断	4
	1. 学年および学科別受診状況	
	2. 結果	
IV	教職員定期健康診断	8
	1. 受診状況と受診者の年齢構成	
	2. 結果	
V	学生相談室	13
	1. 学生相談室活動報告	
	2. 相談室の来談状況について	
	3. 考察および今後の課題	

I 保健室の年間業務

1. 通年業務

- ・ 傷病時の応急処置、救急対応
- ・ 学生・教職員の健康管理、健康相談
- ・ 学生・教職員定期健康診断の準備、実施と事後措置（保健指導、受診勧奨、医師の面談）
- ・ 教職員ストレスチェックの準備、実施と事後措置
- ・ 学生・教職員定期健康診断外部受診者対応
- ・ 学生健康診断問診票の入力
- ・ 学校医の診療、健康相談
- ・ 健康診断証明書の発行
- ・ 感染症登校停止・許可に係わる証明書発行
- ・ 救護業務（入試、各種行事）、救急バッグの点検補充・貸出
- ・ 医療機器備品の管理（AED、車いすなど）
- ・ 学籍異動などのカルテ入力、処理
- ・ 健康に関する情報の発信、周知啓発
- ・ 学生相談室の予約業務
- ・ 保健室運営に関する事務・統計処理

2. 月別業務

4 月	新入生オリエンテーション、新入生健康診断、入学式救護待機、教職員定期健康診断事後措置、教職員定期健康診断外部受診者案内
5 月	学生定期健康診断事後措置、感染症罹患歴調査、抗体検査
6 月	教職員健診後二次検査結果確認、学生定期健康診断事後措置、
7-9 月	定期健康診断結果統計処理、各種研修会出席、保健室備品点検・整備 感染症罹患調査統計処理、一次救命処置講習会開催
10 月	教職員ストレスチェック、秋学期入学生健康診断、オープンキャンパス・入試・大学祭救護待機、教職員・学生健康診断外部業者との打合せ、準備開始
11 月	教職員インフルエンザ予防接種、ストレスチェック事後措置
12 月	学生・教職員健康診断外部業者打合せ、準備
1 月	教職員・学生健康診断準備、大学入学共通テスト救護待機
2 月	教職員定期健康診断
3 月	教職員定期健康診断、教職員定期健康診断事後措置、卒業式救護待機、 在校生定期健康診断、保健室年間報告書作成

Ⅱ 保健室利用状況

1. 2022 年度

1) 年間利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生	18	32	44	55	5	10	20	33	30	11	5	4	267
教職員	6	7	2	4	8	5	5	4	2	10	6	15	74
一般	0	0	0	2	3	0	2	0	0	1	0	0	8
計	24	39	46	61	16	15	27	37	32	22	11	19	349

2) 主訴別利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外科	打撲	0	3	0	2	2	0	1	1	1	1	1	1	13
	捻挫	2	7	3	1	0	1	1	1	0	1	0	13	30
	突き指	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
	骨折・脱臼	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	3
	切創	0	0	2	1	0	1	1	0	4	0	0	1	10
	刺傷・虫刺され	1	1	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	12
	擦過傷	0	1	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	6
	靴づれ	2	0	4	5	0	1	2	0	2	3	0	0	19
	熱傷	0	0	0	2	2	1	2	1	0	0	0	0	8
	筋肉関節痛	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
内科	胃腸症状（腹痛・嘔吐）	1	7	1	4	3	0	2	1	3	0	1	1	24
	感冒症状（発熱・咽頭痛）	0	2	0	1	1	1	3	1	6	0	0	0	15
	頭痛	1	2	2	3	0	0	1	2	2	0	0	0	13
	気分不良（倦怠感・疲労）	4	6	3	5	0	2	0	2	3	5	1	0	31
	過呼吸	1	0	2	2	0	0	1	1	0	0	0	0	7
他科 / その他	月経随伴症状	2	1	2	4	0	0	2	2	1	0	1	0	15
	皮膚・アレルギー症状	1	0	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	5
	耳鼻科症状	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	眼科症状	0	0	1	1	0	0	0	0	2	1	1	0	6
	口腔歯科症状	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
	主訴その他	1	2	3	4	0	0	3	1	0	1	0	2	17
	健康相談	6	7	11	20	8	7	6	22	6	9	5	1	108
	計	22	39	48	60	16	15	28	38	32	22	11	19	350

3) 学生学年別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1 年次生	6	13	7	12	1	2	4	5	5	3	2	1	61
2 年次生	4	7	15	14	0	1	3	10	8	2	1	1	66
3 年次生	4	11	16	19	0	2	5	13	12	3	1	2	88
4 年次生	4	0	2	9	4	4	6	4	5	3	0	0	41
大学院	0	1	4	1	0	1	2	1	0	0	0	0	10
通信教育部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
科目等履修生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	18	32	44	55	5	10	20	33	30	11	5	4	267

2. 2023 年度

1) 年間利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生	62	59	75	115	9	31	44	95	60	48	3	4	605
教職員	4	3	12	9	5	9	1	7	4	5	3	6	68
一般	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2	1	6
計	66	62	88	124	14	40	45	102	64	55	8	11	679

2) 主訴別利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外科	打撲	2	2	5	1	0	1	2	0	2	0	0	0	15
	捻挫	1	0	2	3	0	0	1	2	1	0	0	0	10
	突き指	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	骨折・脱臼	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	切創	3	2	2	1	1	4	1	1	4	0	0	1	20
	刺傷・虫刺され	1	0	1	5	0	1	1	0	0	0	0	0	9
	擦過傷	1	6	3	1	0	1	1	3	2	3	0	2	23
	靴づれ	2	0	3	2	0	0	0	2	0	0	0	0	9
	熱傷	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	筋肉関節痛	1	4	1	0	1	1	1	0	1	0	0	0	10
内科	胃腸症状（腹痛・嘔吐）	1	4	4	3	0	2	1	0	0	5	0	0	20
	感冒症状（発熱・咽頭痛）	4	6	10	6	2	2	5	14	6	10	0	2	67
	頭痛	0	1	1	4	0	0	1	4	2	1	0	0	14
	気分不良（倦怠感・疲労）	19	13	7	7	1	4	14	6	13	4	1	1	90
	過呼吸	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3
他科 / その他	月経随伴症状	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	0	0	5
	皮膚・アレルギー症状	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	耳鼻科症状	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	4
	眼科症状	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	口腔歯科症状	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	主訴その他	6	6	17	64	6	6	6	46	25	10	4	2	198
	健康相談	25	8	23	23	3	18	10	21	3	21	11	3	169
計		66	56	88	124	14	40	45	102	64	55	17	11	682

3) 学生学年別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1 年次生	37	34	43	51	3	7	16	49	25	22	2	1	290
2 年次生	4	11	5	15	2	4	5	8	8	10	0	0	72
3 年次生	6	9	16	26	0	7	18	24	16	9	0	0	131
4 年次生	9	3	8	18	4	2	4	13	9	6	1	2	79
大学院	6	2	2	5	0	9	0	0	1	1	0	1	27
通信教育部	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
科目等履修生	0	0	1	0	0	2	0	1	1	0	0	0	5
計	62	59	75	115	9	31	44	95	60	48	3	4	605

Ⅲ 学生定期健康診断

学校保健安全法に則り、毎年3～4月に実施している。問診は心身の自覚症状の有無や現病歴・既往歴等を把握し、健康管理に役立てている。健康診断検査項目は以下の通りである。

学部・院1年次生 ……身長・体重・血圧・尿検査・胸部X線・心電図・内科診察

学部2,3年次生 ……身長・体重・血圧・尿検査・胸部X線・内科診察

学部4年次生・院2年次生 ……身長・体重・血圧・尿検査・胸部X線・視力・聴力・内科診察

※心電図は有所見者のみ翌年も受検

1. 学年および学科別受診状況

		2022年度			2023年度		
		対象者数	実施数	受診率(%)	対象者数	実施数	受診率(%)
1年次	児童教育	115	115	100	192	192	100
	国際文化	29	29	100	63	63	100
	心理	42	42	100	75	75	100
	スポーツ	55	55	100	137	136	99.3
2年次	児童教育	151	151	100	115	115	100
	国際文化	38	26	68.4	26	20	76.9
	心理	46	45	97.8	39	36	92.3
	スポーツ	49	49	100	55	54	98.2
3年次	児童教育	194	194	100	149	148	99.3
	国際文化	70	40	57.1	34	29	85.3
	心理	68	68	100	47	46	97.9
	スポーツ	66	65	98.5	49	49	100
4年次	児童教育	203	202	99.5	196	194	99.0
	国際文化	57	54	94.7	75	64	85.3
	心理	49	48	98.0	67	65	97.0
	スポーツ	58	58	100	67	67	100
	福祉臨床	1	1	100	0	0	0
大学院 1年次		20	20	100	26	25	96.2
大学院 2年次		35	35	100	27	25	92.6
全体		1346	1297	96.4	1439	1403	97.5

※2019年度より福祉臨床学科新規募集は終了

2. 結果

1) 問診結果

(1) 既往歴および治療中の疾患

	2022年度		2023年度	
	既往歴	治療中	既往歴	治療中
呼吸器疾患	119	9	135	19
心臓疾患	20	4	17	9
糖尿病	0	2	0	1
胃・十二指腸潰瘍	3	0	3	0
腸閉塞・腹膜炎	1	0	1	0
婦人科疾患	4	22	9	43
腎臓疾患	11	1	11	2
泌尿器疾患	0	1	2	0
整形外科疾患	26	14	36	19
眼科疾患	2	0	3	1
耳鼻科疾患	17	14	11	12

(2) アレルギー

	2022年度	2023年度
食物アレルギー	168	160
薬物アレルギー	13	21
その他	107	125
エピペン所持	2	1

(3) 日常生活について（朝食摂取、喫煙、飲酒）

①2022 年度

	1年次	2年次	3年次	4年次	院生	計	
朝食欠食 週3回以上	57	80	120	138	6	401	30.9%
喫煙している	0	0	3	8	0	11	0.8%
飲酒の頻度 毎日	0	0	1	4	1	6	0.5%
時々	3	1	128	142	4	278	21.4%

②2023 年度

	1年次	2年次	3年次	4年次	院生	計	
朝食欠食 週3回以上	142	73	99	138	0	452	31.7%
喫煙している	4	1	6	5	1	17	1.2%
飲酒の頻度 毎日	0	0	7	3	1	11	0.8%
時々	9	3	101	156	16	285	20.0%

2) 検査項目別有所見者、要精密検査数

※有所見者：「要観察」「要注意」と判定された者

①2022 年度

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	院生	合計
胸部X線	有 所 見	0	0	0	0	0	0
	要 精 検	1	0	0	0	0	1
内科診察	有 所 見	1	3	14	18	3	39
	要 精 検	0	0	1	0	0	1
血 圧	有 所 見	1	2	3	1	2	9
	要 精 検	0	0	0	0	0	0
検 尿	有 所 見	5	3	1	2	1	12
	要 精 検	8	6	4	7	1	26
聴 力	有 所 見				0	1	1
	要 精 検				0	1	1
心電図	有 所 見	5	6	7	6	4	28
	要 精 検	0	0	0	0	0	0
合 計	有 所 見	12	14	25	27	11	89
	要 精 検	9	6	5	7	2	29

②2023 年度

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	院生	合計
胸部X線	有 所 見	0	0	0	0	0	0
	要 精 検	1	0	0	2	0	3
内科診察	有 所 見	16	10	4	19	0	49
	要 精 検	0	0	1	5	0	6
血 圧	有 所 見	1	0	0	0	2	3
	要 精 検	0	1	0	0	0	1
検 尿	有 所 見	6	2	5	5	1	19
	要 精 検	5	3	1	2	0	11
聴 力	有 所 見				2	0	2
	要 精 検				0	0	0
心電図	有 所 見	16	4	6	7	0	33
	要 精 検	0	0	0	1	0	1
合 計	有 所 見	39	16	15	33	3	106
	要 精 検	6	4	2	10	0	22

3) 健康診断結果

(1) BMI

①2022 年度

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	大学院生	合計
やせ BMI ～18.4	27 (11.8%)	27 (12.4%)	59 (21.2%)	50 (19.9%)	12 (21.8%)	175 (17.0%)
普通体重 BMI18.5～24.9	174 (76.0%)	167 (76.6%)	186 (66.9%)	162 (64.6%)	37 (67.3%)	726 (70.4%)
肥満 BMI 25.0～	28 (12.2%)	24 (11.0%)	33 (11.9%)	39 (15.5%)	6 (10.9%)	130 (12.6%)
合計	229 (100%)	218 (100%)	278 (100%)	251 (100%)	55 (100%)	1031 (100%)

※「日本肥満学会」基準

②2023 年度

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	大学院生	合計
やせ BMI ～18.4	女子	52 (11.2%)	17 (7.6%)	29 (10.7%)	56 (14.4%)	8 (16.0%)	177 (12.6%)
	男子	14 (3.0%)				0	14 (1.0%)
普通体重 BMI18.5～24.9	女子	221 (47.4%)	177 (79.0%)	216 (79.4%)	295 (75.6%)	30 (60.0%)	924 (65.9%)
	男子	122 (26.2%)				5 (10.0%)	127 (9.1%)
肥満 BMI 25.0～	女子	36 (7.7%)	30 (13.4%)	27 (9.9%)	39 (10.0%)	6 (12.0%)	138 (9.8%)
	男子	21 (4.5%)				1 (2.0%)	22 (1.6%)
合計		466 (100%)	224 (100%)	272 (100%)	390 (100%)	50 (100%)	1402 (100%)

※2023 年度より男女共学

(2) 内科診察結果

所見	2022年度	2023年度
甲状腺疾患(疑)	28	26
貧血症状	8	5
心音異常・心雑音	7	14
不整脈	6	8
自覚症状強い	1	1
皮膚病変	2	1
眼科疾患(疑)	0	1
その他	4	4
合計	56	60

(3) 胸部 X 線検査結果

所見	2022年度	2023年度
肺門影腫大/右側大動脈弓	1	0
肺のう胞・ブラ	1	1
脊柱側弯症	29	35
胸膜肥厚	2	0
胸膜肥厚/肺・胸郭術後	3	0
治癒陰影	1	3
心・縦隔術後	2	1
斑状影	0	2
縦隔影腫大	0	1
奇静脈葉	0	1
大動脈弓	0	1
異物	0	2
合計	39	47

(4) 心電図検査結果

所見	2022年度	2023年度
洞性不整脈	4	3
右軸偏位	4	3
洞性頻脈	10	7
洞性徐脈	3	15
低電位（四肢誘導）	2	4
反時計方向回転	1	1
上室性期外収縮	3	2
完全右脚ブロック	4	5
心室性期外収縮	4	5
異常Q波・疑	1	1
左軸偏位	3	5
1度房室ブロック	3	1
W P W症候群	2	2
Q S パターン	2	5
不完全右脚ブロック	1	2
時計方向回転	0	5
ST上昇	0	1
極端な軸偏位	0	1
PQ短縮	0	1
R波増高不良	0	2
ST低下	0	1
合計	47	72

IV 教職員定期健康診断

教職員定期健康診断は、労働安全衛生規則および学校保健安全法に基づき、年1回2～3月に実施している。外部業者に委託しており、可能な限り受診希望日に受診できるよう業者と調整している。結果は個別に配布し、精密検査が必要な者、産業医から指示があった者はメール等で医療機関受診を勧めている。

人間ドックまたは医療機関で受診を希望する者は、その結果を定期健康診断に振り替えている。

健康診断検査項目は以下の通りである。

- ・身体計測（身長、体重、BMI）
- ・視力、聴力検査
- ・尿検査（糖、蛋白、潜血、ウロビリノーゲン）
- ・血圧測定
- ・肝機能検査（AST、ALT、 γ -GT）
- ・血中脂質検査（中性脂肪、HDL コレステロール、LDL コレステロール、non-HDL コレステロール、総コレステロール）
- ・血糖検査（空腹時血糖、HbA1c）
- ・貧血検査（ヘモグロビン値、赤血球数、ヘマトクリット、白血球、血小板）
- ・腎機能検査（クレアチニン、eGFR）、尿酸
- ・心電図検査
- ・胸部 X 線検査
- ・内科診察

40 歳以上：腹囲測定、便潜血検査、胃部検査（希望者のみ）

1. 受診状況と受診者の年齢構成

1) 2022 年度

		教員	職員	全体
対象数		99	92	191
受診者	20～29歳	16	8	24
	30～39歳	8	15	23
	40～49歳	16	27	43
	50～59歳	14	29	43
	60歳以上	38	10	48
	総計	92	89	181
未受診者数		7	3	10
受診率 (%)		92.9	96.7	94.8

2) 2023 年度

		教員	職員	全体
対象数		93	101	194
受診者	20～29歳	15	6	21
	30～39歳	8	15	23
	40～49歳	13	31	44
	50～59歳	16	23	39
	60歳以上	35	17	52
	総計	85	94	179
未受診者数		8	7	15
受診率 (%)		91.4	93.1	92.3

2. 結果

1) 2022 年度 法定項目

			有所見者									
	A判定 異常なし	B判定 軽度異常	C判定 要観察	D判定 要注意	E判定 要精検	F判定 要治療	G判定 継続加療	H判定 要再検	未受診	(A～G判定) 合計	(C～G判定)	
											有所見者数	有所見率
全体	33	34	44	14	53	2	1	0	0	181	114	63.0
内科診察	171	1	4	1	3	1	0	0	0	181	9	5.0
聴力1000Hz	174	0	6	0	0	0	0	0	1	180	6	3.3
聴力4000Hz	170	0	10	0	0	0	0	0	1	180	10	5.6
胸部X線	144	29	5	0	1	0	1	0	1	180	7	3.9
血圧	140	29	0	10	2	0	0	0	0	181	12	6.6
貧血	136	26	9	0	10	0	0	0	0	181	19	10.5
肝機能	140	15	9	0	17	0	0	0	0	181	26	14.4
血中脂質	90	35	26	11	19	0	0	0	0	181	56	30.9
血糖	144	20	7	0	10	0	0	0	0	181	17	9.4
尿糖	175	1	0	5	0	0	0	0	0	181	5	2.8
尿蛋白	156	20	0	5	0	0	0	0	0	181	5	2.8
心電図	143	5	25	4	3	1	0	0	0	181	33	18.2

2) 2023 年度 法定項目

	A判定 異常なし	B判定 軽度異常	C判定 要観察	D判定 要注意	E判定 要精検	F判定 要治療	G判定 継続加療	H判定 要再検	未受診	(A～G判定) 合計	(C～G判定)	
											有所見者数	有所見率
全体	33	26	43	22	48	0	7	0	0	179	120	67.0
内科診察	142	6	6	5	18	0	2	0	0	179	31	17.3
聴力1000Hz	170	0	7	0	0	0	0	0	2	177	7	4.0
聴力4000Hz	168	0	9	0	0	0	0	0	2	177	9	5.1
胸部X線	142	27	2	0	5	0	1	0	2	177	8	4.5
血圧	143	22	0	12	2	0	0	0	0	179	14	7.8
貧血	142	13	11	0	13	0	0	0	0	179	24	13.4
肝機能	142	12	10	0	15	0	0	0	0	179	25	14.0
血中脂質	97	31	32	11	8	0	0	0	0	179	51	28.5
血糖	142	19	9	0	9	0	0	0	0	179	18	10.1
尿糖	173	2	0	4	0	0	0	0	0	179	4	2.2
尿蛋白	165	10	0	4	0	0	0	0	0	179	4	2.2
心電図	138	11	22	1	3	0	4	0	0	179	30	16.8

3) 2022 年度 法定外項目

	A判定 異常なし	B判定 軽度異常	C判定 要観察	D判定 要注意	E判定 要精検	F判定 要治療	G判定 継続加療	H判定 要再検	未受診	(A～G判定) 合計	(C～G判定)	
											有所見者数	有所見率
脂質代謝	63	36	27	12	26	0	17	0	0	181	82	45.3
糖代謝	108	42	18	0	8	0	5	0	0	181	31	17.1
貧血・血球	126	24	8	3	16	0	4	0	0	181	31	17.1
尿酸	146	0	10	1	0	0	1	0	23	158	12	7.6
胃部X線	29	21	5	0	3	0	1	0	122	59	9	15.3
便潜血	105	0	0	0	4	0	0	0	72	109	4	3.7
腎機能	134	28	6	11	1	0	1	0	0	181	19	10.5

4) 2023 年度 法定外項目

	A判定 異常なし	B判定 軽度異常	C判定 要観察	D判定 要注意	E判定 要精検	F判定 要治療	G判定 継続加療	H判定 要再検	未受診	(A～G判定) 合計	(C～G判定)	
											有所見者数	有所見率
脂質代謝	69	36	28	9	18	0	19	0	0	179	74	41.3
糖代謝	115	37	12	0	9	0	6	0	0	179	27	15.1
貧血・血球	138	11	12	3	14	0	1	0	0	179	30	16.8
尿酸	110	0	6	1	1	0	0	0	61	118	8	6.8
胃部X線	21	24	2	0	2	0	0	0	130	49	4	8.2
便潜血	78	0	0	0	2	0	0	0	99	80	2	2.5
腎機能	146	23	2	6	1	0	1	0	0	179	10	5.6

5) 検査所見

(1) 2022 年度

①胸部 X 線所見

	教員	職員	計
斑状影	1	0	1
脊柱側弯症	5	2	7
治癒陰影	7	5	12
大動脈蛇行	7	0	7
肺のう胞・ブラ	0	1	1
石灰化影	1	0	1
気管支拡張症	0	1	1
肺・胸郭術後	1	1	2
肋骨骨折痕	0	1	1
鎖骨骨折痕	1	0	1
左肺術後	0	1	1
左下肺野索状影	0	1	1
左肺野粒状影	0	1	1
心拡大	0	1	1
右肺野胸膜肥厚	0	1	1
軽度心拡大	0	2	2
陳旧性肺病変	0	1	1
胸膜癒着	1	0	1
右上肺野網状影	0	1	1
開胸術後	0	1	1
乳房術後	1	0	1
大動脈石灰化	1	0	1
合 計	26	21	47

②心電図所見

	教員	職員	計
1 度房室ブロック	2	1	3
低電位（四肢誘導）	2	3	5
R 波増高不良・減高	0	1	1
完全右脚ブロック	2	2	4
S T 上昇	1	2	3
心室内ブロック	0	1	1
T 波異常・軽度	3	0	3
左軸偏位	5	2	7
洞性徐脈	0	3	3
S T 低下・軽度	2	0	2
洞性頻脈	0	1	1
S T 低下	0	1	1
右室肥大・疑	0	1	1
肺性 P	0	1	1
Q S パターン	1	0	1
左室高電位	0	1	1
不完全右脚ブロック	1	0	1
心房細動	0	1	1
下壁心筋梗塞を否定しえず	1	0	1
軽度な左軸偏位	0	1	1
QT 間隔延長	0	1	1
洞性不整脈	2	0	2
僧帽性 P	0	1	1
時計方向回転	2	1	3
反時計回転	0	1	1
不定軸	0	1	1
心室期外収縮	0	1	1
左室高電位	0	1	1
陰性 T 波	0	2	2
合 計	24	31	55

③胃部検査所見

	教員	職員	計
胃ポリープ	6	11	17
胃潰瘍疑	1	1	2
十二指腸潰瘍癒痕	2	1	3
胃炎	1	2	3
食道裂孔ヘルニア	2	0	2
萎縮性胃炎	2	2	4
石灰化陰影	1	1	2
バレット粘膜	1	0	1
バレット食道	1	0	1
胃底腺ポリープ	0	1	1
慢性胃炎	1	0	1
逆流性食道炎	1	0	1
胃弯部ポリープ	1	0	1
胃粘膜下腫瘍	0	1	1
合 計	20	20	40

(2) 2023 年度

①胸部 X 線所見

	教員	職員	計
浸潤状影	0	1	1
治癒陰影	5	4	9
脊柱側彎症	3	1	4
胸膜癒着	1	0	1
肋軟骨石灰化	0	1	1
石灰化影	1	1	2
鎖骨骨折痕	1	0	1
心肥大	0	1	1
右上肺野索状影	0	1	1
両肺野索状影	0	1	1
右上肺野胸膜肥厚	0	1	1
異物	1	0	1
大動脈蛇行	5	2	7
肋骨骨折痕	0	1	1
開胸術後	0	1	1
肺胸郭部術後	0	1	1
左肺術後	0	1	1
横隔膜挙上	1	0	1
陳旧性病変	0	1	1
肺のう胞・ブラ	0	1	1
気管支拡張症	0	1	1
不整形影	1	0	1
合 計	19	21	40

②心電図所見

	教員	職員	計
心室性期外収縮	1	0	1
上室性期外収縮	0	2	2
S T 上昇	1	1	2
T 波異常	1	1	2
陳旧性心筋障害疑い	1	0	1
完全右脚ブロック	2	3	5
不完全右脚ブロック	1	0	1
QT間隔遅延	0	1	1
R波増高不良・減高	0	1	1
R波増高不良	0	1	1
P波増高不良	0	1	1
S T 低下	1	2	3
左軸偏位	3	3	6
右軸偏位	1	1	2
時計方向回転	2	0	2
反時計回転	0	2	2
洞性徐脈	1	1	2
低電位	1	2	3
洞調律	0	1	1
1度房室ブロック	0	1	1
非特異的T変化	0	0	0
極端な洞性不整脈	1	0	1
右室伝導遅延	0	1	1
心室内ブロック	0	1	1
異常Q波・疑	0	1	1
合 計	17	27	44

③胃部検査所見

	教員	職員	計
萎縮性胃炎	2	1	3
逆流性食道炎	1	1	2
十二指腸潰瘍癒痕	2	2	4
胃潰瘍癒痕	1	0	1
胃ポリープ	9	11	20
胃潰瘍疑	1	0	1
食道裂孔ヘルニア	2	1	3
食道炎疑い	1	0	1
幽門部たこいば胃炎	1	0	1
慢性胃炎	1	0	1
胃炎	2	1	3
合計	23	17	40

＜総評＞

学生の保健室利用については267人/年（2022年）→605人/年（2023年）と大きく増加している。受診者数の増加はCOVID-19規制緩和後に登校者数が増加したことが一因と考える。保健室利用の主訴としては2022・2023年共に気分不良（倦怠感・疲労）と感冒症状が多い。気分不良については学年別では1、3年次生が多く、時期的には4月～6月に集中している。新生活への適応や就職活動など精神的な負荷が要因となっている事が予測される。感冒症状の増加については2023年の5月からのCOVID-19の規制緩和後の感染症の流行が原因と考えられる。現在もCOVID-19を含めた感染症に流行終息の兆しは見え、今後も引き続き手指消毒や換気など基本的な感染予防策を継続する必要がある。学生の日常生活については喫煙や飲酒率は低いが、朝食を欠食している割合が3割ほど認められ生活習慣の改善の為今後の課題として挙げられる。教職員・学生共に健康診断の受診率については2022年・2023年共に全体の受診率は90%以上を保っていた。今後も疾患の予防や早期発見のために健康診断の結果をふまえた声掛けを心がけていく必要がある。

学校医 河盛 真子

V 学生相談室

室長：三井 知代

カウンセラー：柴田博美 中田瞳 大橋ひとみ

1. 学生相談室活動報告

(1) 学生相談室の体制

当学生相談室（以下、相談室と略記）は1980年に開室し、以来約43年間活動を行ってきた。2022年度からは1日7時間・週3日のカウンセラー在室体制となり、現在に至っている。学生相談室の業務は、カウンセリング業務以外に、相談室が「学生が困ったときに相談できる場所」として、新入生のオリエンテーションでの相談室の紹介、年に1、2回のイベント、年に2回の「学生相談室だより」の発行などを行っている。また、2020年度より新型コロナウイルス感染症の流行を受け、オンラインでのカウンセリングを開始した。現在でも、留学中や帰省中、大学に来られない場合のニーズにこたえるため、オンラインでのカウンセリングを継続している。

2010年度以降は、他部署と相談室が連携して学生サポートを行うために、月1回の学生相談室専門部会を行っている。また、2013年度より学生相談学会の会員となり、学生相談に関する新しい知識・技能の修得に努めている。

(2) 活動内容

以下、活動内容について2022年度、2023年度の取り組みについて記す。

① 学生対象の活動

i：個別相談

3人のカウンセラーにより、学生生活の心理的、発達の支援を行う。

ii：イベント

2022年6月から7月に、羊毛フェルトでの作品制作イベントを行った。2022年11月と2023年12月から1月は、心理テストのエゴグラム（TEG）を個別に実施した。イベントは、新しい環境での適応に悩みを抱える1年生や、就職活動に際して自分を見つめ直す必要性を感じている学生に、相談室の活動をより身近に知ってもらい、適切な支援につなげることを目的としている。またこれらのイベントは学生のもつ潜在的なニーズや相談室への期待を直接聞き取る機会としても活用している。

iii：学生相談室だより（巻末 参考資料）

学生相談室だよりは、学生生活の中で学生が関心を持ちやすいテーマを選び、心身の健康に関わる情報や相談室の活動の周知を目的としている。学生相談室だよりは校内の掲示板やホームページ等に掲載し、学生のみではなく教職員から学生に相談室の利用を勧めてもらうきっかけにもなっている。

② 教職員対象の活動

相談室では、2011 年度より、6 年間職員向けに年 1 回の講演会・講習会を行ってきた。2021 年度には SD (Staff Development) 研修と位置づけ、「学生相談室からみえる学生たち 繊細な人・攻撃的な人への対応」というテーマでオンライン研修会を実施したが、2023 年度は、諸事情により講習会は実施していない。

2. 相談室の来談状況について

2022 年度、2023 年度の学生相談の来談状況、および精神科校医との面接数について記す。

(1) 年間来談状況

表 1 は 2022 年度と 2023 年度の月別、学年別の来談者数である。また図 1 に月別の合計来談者数の推移を示した。2023 年度の合計来談者数は 2022 年度と比較すると増加傾向にある。

表 1. 2022 年度、2023 年度の学年・月別来談者数

年度	2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023
学年/月	4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1年次	0	16	2	24	2	16	1	17	0	6	0	4
2年次	2	5	3	4	6	5	6	5	1	2	1	6
3年次	6	1	4	2	7	3	7	7	3	3	3	4
4年次	3	5	1	1	1	6	7	3	4	1	2	3
大学院	0	5	0	4	0	4	0	2	0	1	0	1
教職員	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0
合計	11	32	10	35	16	35	21	36	8	13	6	18

2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023
10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計	
1	9	0	14	2	8	1	12	1	1	4	1	14	128
4	4	4	4	6	4	5	2	6	0	8	0	52	41
3	1	5	3	2	2	2	3	0	2	1	5	43	36
5	0	5	1	4	0	2	1	0	2	1	0	35	23
1	2	1	4	1	2	0	1	0	2	0	3	3	31
0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	6
14	16	15	26	15	16	10	19	7	9	14	10	147	265

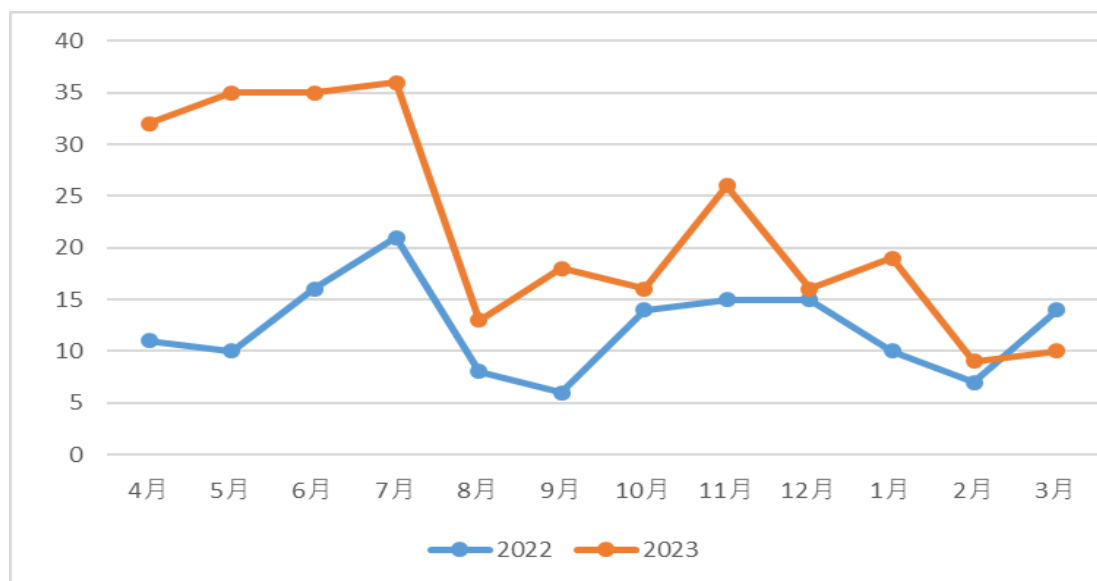


図1. 2022年度、2023年度の月別合計来談者数

表2に精神科校医との面接数を示した。精神科校医との面接は、学生から自発的に医師との面接を希望する場合と、必要に応じてカウンセラーから学生に医師との面接を促すことがある。面接件数として多くはないが、セーフティネットの観点からも精神科校医との連携を図ることは、非常に重要な意味を持っている。

表2. 2022年度、2023年度の学年・月別精神科校医との面接数

年度	2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023
学年/月	4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1年次	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
2年次	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3年次	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
4年次	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
大学院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	0	0	1	1	1	1	0	0	0	1	0

2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023
10月		11月		12月		1月		2月		3月	
0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1

(2) 相談主訴の分類および分類別割合

初回来談時の主訴を7分類し、表3に示した。また、2022年度、2023年度の来談時の主訴の割合を図2に示した。2023年度は例年と比較して、心身の健康状態が主訴となる相談の割合が増加している。

表 3. 初回来談時の主訴の分類とその内容

A	自身の性格	心理的な問題(心的不適合、アイデンティティ)性格に関する相談
B	心身の健康状態	心理的あるいは身体面での健康上の問題に関する相談
C	人間関係	家族関係、友人関係、異性関係の相談
D	履修、学業	休学、退学、転学などの相談。学業上の相談
E	進路	進学や就職、その他の進路に関する相談
F	学生生活	クラブ活動、アルバイト、その他学生生活全般に関する相談
G	その他	上記に含まれないもの

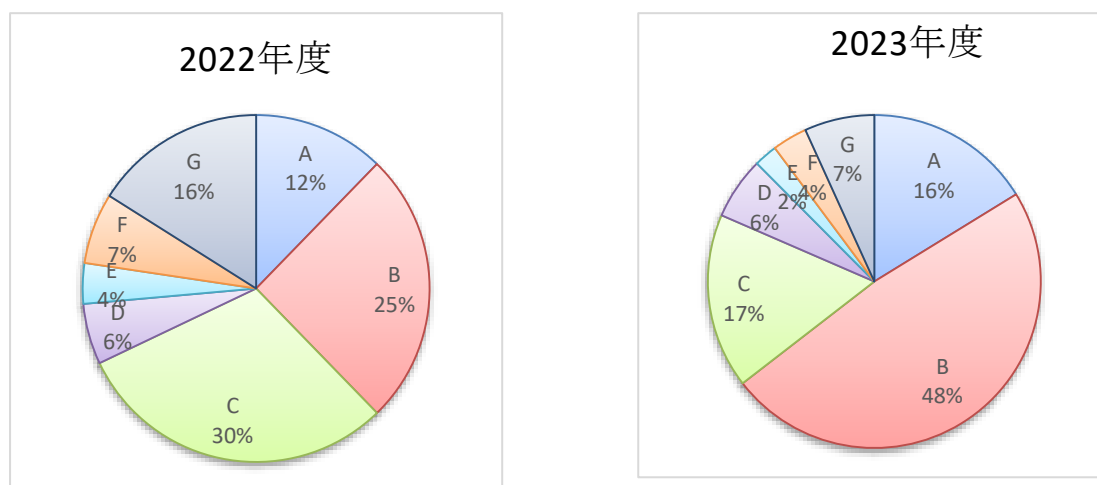


図 2. 2022 年度、2023 年度の来談時の主訴別割合

(3) 来談回数ごとの学生数

図 3 は、2022 年度、2023 年度に来談回数ごとの学生数である。2022 年度、2023 年度共に 1 度の来談が最も多かった。複数回来談している学生には定期的に来談する学生や非定期で来談する学生もいた。また複数のカウンセラーのところに来談する学生もいた。

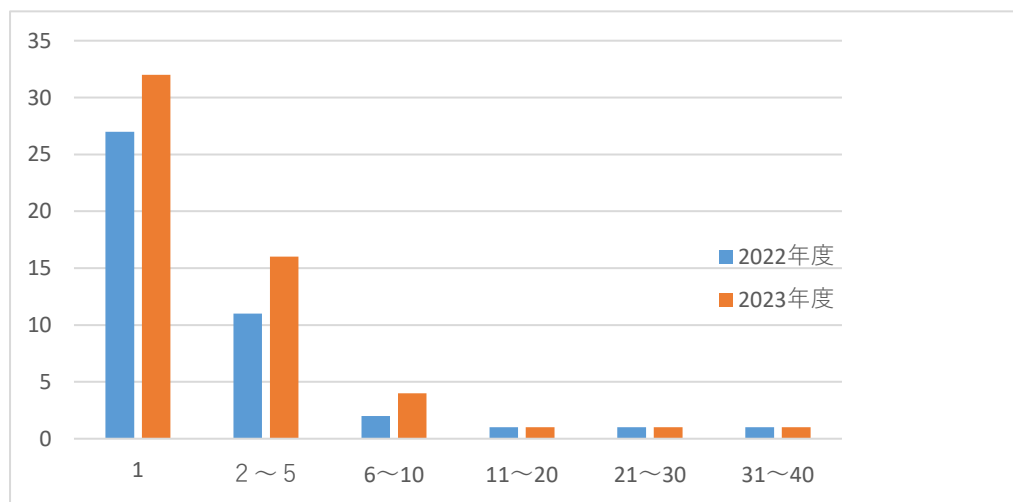


図 3. 2022 年度、2023 年度における来談回数ごとの学生数

(2) 来談状況のまとめ

- ① 2023 年度は相談者数がここ数年よりも増加傾向にあった。その要因として 2023 年 5 月より新型コロナウイルス感染症が 2 類から 5 類になり、対面授業が増え登校する機会が増えたことや男女共学になり、学生数が増加したことなどが考えられる。
- ② 相談内容の主訴は、「心身の健康状態」と「人間関係」が多かった。特に 2023 年度は持病等に関わる「心身の健康状態」が学生生活に与える影響について、早めに相談しておきたいと来談した学生が多かったように思われる。また、複数の主訴が重なっているケースもあった。
- ③ 来談回数においては、1 回のみや 2～5 回の来談が多く、1 年間で 10 回以上来談する学生は少ないが、年度を超えて継続して来談する学生もいる。
- ④ 2022 年度は 6 月～7 月、10 月～12 月の来談が全体的に多かった。2023 年度は 4 月～7 月の来談が多く、特に 1 年生が多かった。いずれの年度も、長期休暇中よりも授業のある時期の方が来談は多かった。

3. 考察および今後の課題

(1) 来談者数の増減について

2023 年度は本学が男女共学になった初年度でもあることから、学生数の増加に伴い相談件数が増えたと考えられる。特に春学期に当たる 4～7 月に 1 年生の来談が多く、夏季休暇以降に減少したのが特徴である。入学当初に大学での新生活への不安が高かったことが予想される。主訴の解決に至らないまま中断したケースもあるが、後に順調に学生生活を送っているケースもあり、入学後早期に学生相談を利用することで、当初の不安の軽減やその後の適応につながったと考えられる。

(2) 学生にとっての相談室

相談室へ来る学生の主訴は上記(図 2)のように様々である。人間関係の悩み・心身の不調・学生生活の不安・履修や進路など多岐にわたる。学生によっては教職員や保健室で勧められて来談し、主訴がはっきりしていないケースもある。そのような場合、カウンセラーはそれぞれの学生の特徴に応じた工夫が面談に必要になってくる。学生が来談した時に、まずは見立てを行い(個人の心身の健康状態・家庭環境に加え、修学・学生生活を送る力の見立て)、その見立てに応じた対応・面接を行う必要がある。また安心して話ができる空間作りやそれぞれの学生に応じた時間や目標設定なども必要になる。

(3) 教職員にとっての相談室

相談室へ来談する学生の中で、教職員から勧められて来談する学生数は増えている。学生に迷いがあったとしても教職員に背中を押してもらうことで来談につながることは多い。また、教職員と学生相談室スタッフが、学生をどう支援していくのかについて、日頃から目線を合わせ、その対応についてともに学び合っていく関係性を醸成していくことが、今後より重要になっていくと考える。それ故教職員向けの研修も今後継続して行う必要があると考える。

(4) 働きかける存在としての相談室

2022 年度、2023 年度に開催したイベントにおいて、その日程や内容が多くが学生が参加可能なものであったとは言い難い。学生に学生相談室の活動を周知し、カウンセラーと学生が関わりを持ち、必要があれば支援につなげるという機会を今後どのように充実させていくのが課題と考える。

(5) 今後の課題

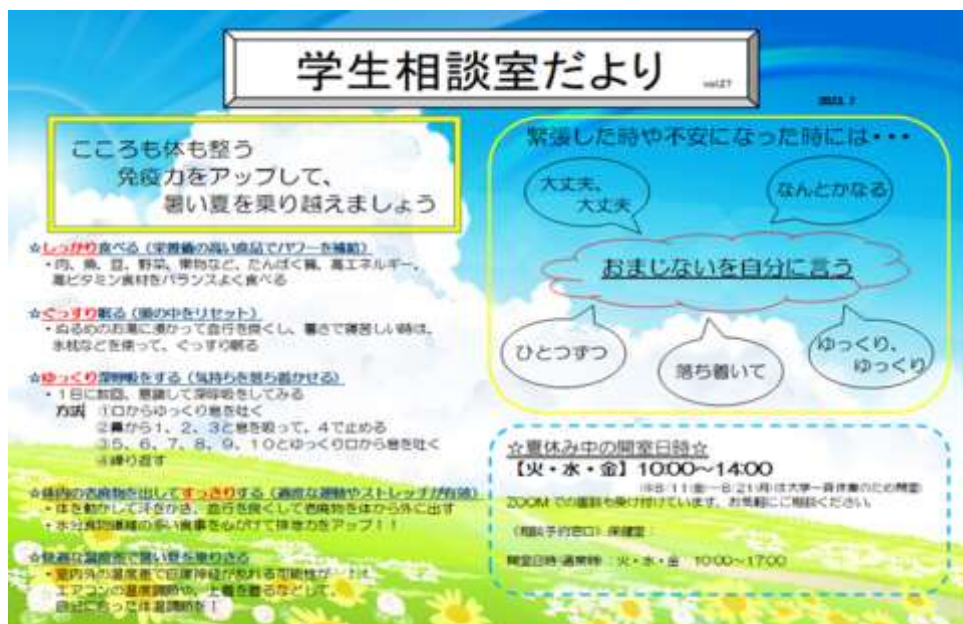
カウンセラーの業務は、個別の定期的な面談以外にも、申し込みケースの緊急性の判断、春の健康診断において心身の不調を訴えている学生へのアプローチ、配慮が必要な学生への支援、緊急の場合の保護者や教員、関係部署との連携、高等学校や医療機関等の学外諸機関との連携などその範囲や仕事量は年々増加しつつある。カウンセラーはその限られた時間、人員の中で様々な工夫や連携によって支援のニーズに対応していかなければならない。また、連携におけるカウンセラーの守秘義務との兼ね合いも問題になる。相談者である学生、また、教職員と相談内容におけるカウンセラーの守秘義務とそれを超えねばならない場合について、事前に話し合っておく必要がある。このような課題を含めて、教職員、関係各部署とのスムーズな連携は、日頃からの関係性によるところが大きく、今後研修会、相談会等を通して学内教職員との関係性をさらに深めていく取り組みが必須と考える。

4. おわりに

学生相談は、学生がカウンセラーと共に学生自身の問題を考えていく中で、本来自分で持っている力に気づき、自分の歩みを選択し進んでいくことを援助している。しかし、学生の悩みが多様化し、学生が抱えている問題が複雑化している現在、上述したように学生相談はカウンセリングルームの中だけではなく、学内外での連携や複数の部署が共同して行う支援が必要なケースも多い。

利用者が増加傾向にある本学の今後の学生相談をさらに充実させていくために、更なる検討と改善を重ねていく必要があると考える。

<参考文献> 日本学生相談学会編 2020 学生相談ハンドブック新訂版 学苑社



<参考資料> 学生相談室だより